

～航空局からのお知らせ～

[2025年6月5日]

★予期しない悪天候（IMC）への突入を回避するための備え

～オーストラリア運輸安全局の安全情報～

オーストラリア運輸安全局（ATSB）は、VFRで飛行中の航空機が不注意でIMCに突入した事例の紹介及びIMCの突入を回避するための推奨事項を発信しておりますので、ご紹介します。

パイパーPA-28は、オーストラリアの地方空港を出発し、森林に覆われた山岳地帯の国立公園の上空を経由して海岸沿いの目的地を目指していました。

パイロットは、山岳地帯を通過する際、標高が高くなるにつれて雲底に接近していることを認識していましたが、目的地の天候を確認していたため、谷を目印に飛行を継続しました。ところが、谷間の両側に雲が広がりIMCの状況となってしまう、周囲が山々のため旋回することもできず緊急事態を宣言しました。その後、パイロットは管制官から航空交通情報と上昇すべき最低安全高度の提供を受け、高度約3,000フィートの雲上で再びVMCに戻ることができ、無事、目的地に着陸することができました。

本ケースでは、管制官のタイムリーな支援により、IMCから離脱し安全に飛行を継続することができましたが、IMCでの飛行に関し訓練を受けていない場合やIMCに対応できる航空機ではない場合は、事故に繋がるリスクが非常に高くなります。

ATSBの航空安全データベースによると、VFRで飛行中の航空機がIMCに突入した事例の約10件に1件が死亡事故につながっており、VFRで飛行中のパイロットにとって、IMCを飛行し続けることは空間識失調の重大なリスクを伴うとされております。

パイロットの経験レベルに関わらず、意図せずIMCに突入することを回避するために必要な知識とスキルを身につける必要があるとして、ATSBは以下のことを推奨しています。

- ・ 予期せぬ天候の変化に備え代替案を用意し、「引き返す」、「迂回する」、又は「天候の良い空域で待機する」といった判断を早めに行うこと。
- ・ 飛行のリスクを管理するため、『個人に応じた最低基準チェックリスト』を準備し、それを活用すること。

※『個人に応じた最低基準チェックリスト』とは、パイロット自身の知識、スキル、経験等に基づき、出発するか、飛行を継続するかを判断するための独自のルールのこと、パイ

ロット自身の「GO/NO GO」チェックリストとして、飛行前と飛行中の両方で難しい決断を下す際のストレスを軽減するのに役立つもの。

- ・計器飛行証明を有していない場合は、悪天候や悪化する気象状況により、飛行計画を変更又は延期する準備を常に整え、無理に飛行を継続しないこと。

飛行前の徹底した準備は、悪化する気象状況への飛行に対する最善の防御策となりますので、すでに梅雨に入っている地域もありますが、本安全情報を参考にいただき、安全確保に努めていただければ幸いです。

ATSB の安全情報

<https://www.atsb.gov.au/media/news-items/2025/unable-turn-around-i-declared-pan>

※メールアドレス変更や配信停止の場合は、お手数ですが本メールに返信する形でご連絡をお願いいたします。

国土交通省 航空局 安全部安全政策課

MAIL : hqt-kogataki@mlit.go.jp

TEL : 03-5253-8111

小型航空機安全対策係（内線 50135）

特定操縦技能審査担当（内線 50136）

～X（旧 Twitter）もやっています～ https://twitter.com/mlit_kogataki
